

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

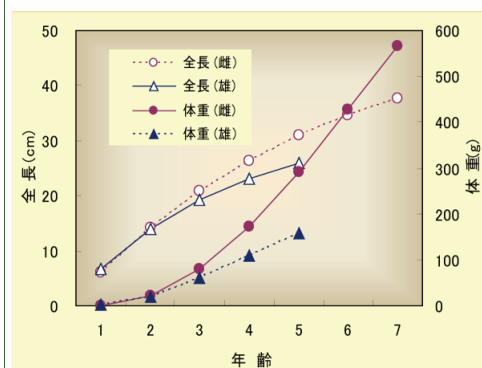
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

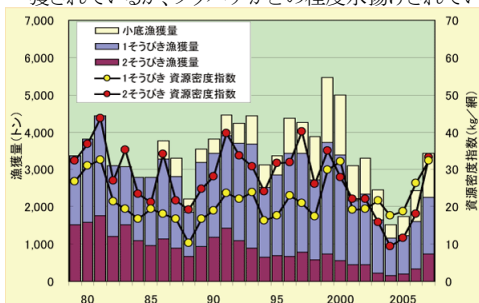


漁業の特徴

日本海西部海域では、1そうびきと2そうびき沖合底びき網(沖底)、小型底びき網(小底)などの底びき網や刺し網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網によるものである。1そうびき沖底の漁場は島根県以東の海域が中心であり、2そうびき沖底は対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。1988年以前は、1そうびきと2そうびき沖底の漁獲が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。

漁獲の動向

本種の総漁獲量は、1986年以降大幅な増減を繰り返しながら推移しており、1999年には5,000トンを超えるピークをむかえるが、2004年には1979年以降最低の1,510トンまで減少した。2005年以降漁獲量は回復傾向を示し、2007年には2002年水準の3,512トンであった。2007年に日本の200海里内において韓国漁船により841トンのカレイ類が漁獲されているが、ソウハチがどの程度水揚げされているか明らかにされていない。

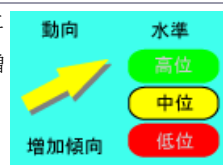


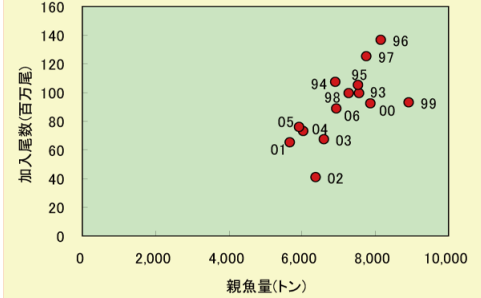
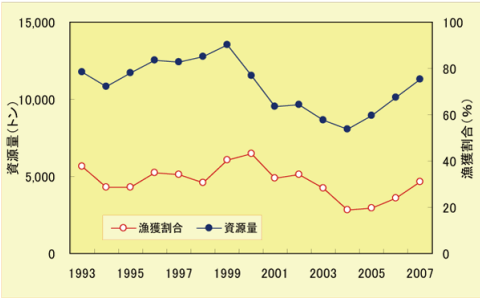
資源評価法

漁獲量、漁獲努力量等の情報を収集し、漁獲物の生物測定結果とあわせて年齢別の漁獲尾数による資源解析を行った。

資源状態

資源量は、1993年の12千トンから1999年の14千トンに増加した後、2004年には8千トンにまで減少した。2005年以降の資源量は増加する傾向にあり、2007年には11千トンであった。加入量(1歳魚の資源量)は、1997～2003年の間著しく減少し、2004年以降徐々に増加する傾向にある。近年における資源量の増加に伴って、漁獲割合も急激に増加している。1993～2006年における加入量と親魚量の関係には、有意な正の相関関係が見出されたが、比較的資源水準が高かった1993～2000年と低かった2001～2006年においては、それぞれ有意な相関関係は見出されなかった。



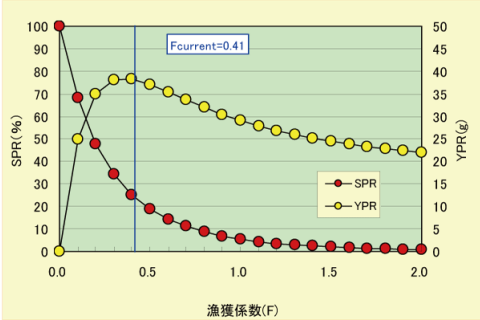


管理方策

加入量は、2003年に著しく低下した後、増加する傾向にあり、親魚量も2005年以降増加する傾向にある。しかしながら、資源量の増加に伴い漁獲圧も急激に増加しており、1～3歳の若齢魚が高い割合で漁獲されている。最近6年間（2001～2006年）における再生産成功率と現在の漁獲圧が継続した場合、資源量は将来漸減する可能性が高い。したがって、資源動向を注視しつつ、現在の漁獲圧を若干下げることが望ましい。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,100トン	0.9Fcurrent	0.37	29%
ABCtarget	2,600トン	0.8・0.9Fcurrent	0.30	24%

- ・ 漁獲割合はABC／資源量
- ・ F値は各年齢のFの単純平均
- ・ Fcurrentは2007年のF



資源評価のまとめ

- ・ 資源は中位水準にある
- ・ 2004年以降の加入量は増加傾向にある
- ・ 資源量の増加に伴い、漁獲圧も増加している

管理方策のまとめ

- ・ 資源動向を注視する
- ・ 若齢魚への漁獲圧を減少させるために、全体的に漁獲圧を若干下げることが望ましい

資源評価は毎年更新されます。